

「 意識を変えた災害 」

広島県 広島県立広島叡智学園中学校 2年 岡田 彩花

平成30年7月、私は自然災害に対して怖い思いをした。周りを見るとマンホールが開いて溢れだす水、ゴロツと雷が落ちたような音をして転がっている瓦礫。すべてが私にとって初めての土砂災害だった。

当時私は小学6年で、災害時は学校で勉強していた。だが、次第に降水量が多くなり警報が出たため、一斉下校となった。私は、学校が早めに終わることや雨がたくさん降っていることに対して嬉しさを感じた。下校中、友達と雨にぬれながらはしゃいで帰っていると、母が迎えにきてくれた。迎えにきて1言目が「今、広島や中国地方がすごいことになっている。」だった。その言葉を聞いてすぐに車の中にあったテレビを見た。するとそこに映し出されていたのは、土砂や雨によって埋もれている住宅街だった。私はさっきの友達と雨の中楽しく帰っていた感情が消えた。車で帰っている途中に見えたものは、マンホールの蓋を開け、噴水のように吹き上がっている水や、溝の中で激しく土砂と流れている水だった。

私は小学校約6年間の中で、洪水のように流れる水を映像でしか見たことがなかった。本当にビデオに出てくるような激流が流れるはずないと思っていた。普段の水は穏やかで危険さを感じないものだった。だがこの災害から、水はときによって人の命を奪ってしまうほど急変してしまうことが分かり、私は水の恐ろしさを実感した。

幸い私の地域では死者や怪我人は出なかったが、土砂によって駐車場がすべて埋まってしまったり、瓦礫が崩れて車や人が通れず、2ヶ月程交通が不便になったりした。ただ、他の地域では土砂による被害が大きく、多くの命が亡くなった。

私の住んでいる広島では、土砂災害が起こりやすい地形となっている。広島の山は、広島花崗岩という岩石から主にできており、その岩石が風化することでまさ土という土ができる。その土は水を含む事で脆く崩れやすい性質を持っており、まさ土がたくさん広島の山に含まれているから、土砂災害が起こりやすいのである。

その後、西日本豪雨災害についてたくさん新聞やニュースに取り上げられた。土砂によって道路が崩された写真、川が氾濫し泥水によって浸水している映像などといったようなものがあった。それを見るたびに土砂災害がいかに恐ろしいのかを実感させられた。私はその年受験を控えていたため、ボランティアに行くことはできなかった。だが毎日、新聞を見ては切り貼りし、台紙にまとめ災害についての情報を得ていた。その作業をしているときに多く見たのは、今回の災害で犠牲者が多く出たという記事だった。そしてその理由が、そもそも避難をしていなかった、避難をする決断が遅かったなどといったようなものだったため、とても驚いた。このことから私は、警報のレベルが避難中に危険になる以前に避難を早めにしておいた方が良いということを学んだ。避難場所が遠くに行きにくかったというのもあったが、それでも早めの行動が自分の命を守ることにつながると感じた。また、私と同世代の子供もこの災害によって亡くなっている記事や、毎日のように死者数が多くなっていくのを見て胸が苦しくなったこともあった。

だけれど半年が経ったころにはもう、西日本豪雨災害の特集の記事が世の中の時事などの記事に変わっていた。私は災害についての記事が薄くなっていくのを見て悲しくなった。このようにメディアから災害関連の情報が少なくなっていくにつれ、人々の災害への関心も薄れ、災害の恐ろしさや避難などの自分の身を守る行動の大切さを忘れていくのかと思った。

私はメディアからこの豪雨に関しての記事がなくなっても覚えておきたいと思ったため、災害が起こった日に必ず黙祷をしたり、いつも梅雨の季節になると気象庁などから警戒レベルがどれぐらいなのかを確認したりしている。そうすることによっていざとなったときにいつでも避難することができるからだ。その他にも寮全体で揃えた防災グッズを身の回りにおいている。私は普段寮で生活しているため避難時には1人で準備をして逃げなければならない。防災グッズの他に避難経路の

令和2年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

確認や避難訓練などを行うことで自分の命を自分で守る練習ができ、災害が起きたとしても避難することができるのではないかと考える。

西日本豪雨災害は、自分の身の回りで起こった災害の中でも1番大きなものであり、私の意識を変えた出来事だった。これからもこの災害を忘れず今の意識が続けられるよう、日常生活の中で防災道具の点検や避難訓練に真剣に取り組んでいきたいと思った。